

令和7年度 第2回 学校運営協議会 記録

R7.8.6 (水) 9:30～11:30

※外部参加者（学校運営協議会委員）

菅沼 泰夫氏（三方原地区根洗町自治会長）

片桐 秀樹氏（細江地区湖東自治会長）

藤田 真人氏（社会福祉法人聖隷事業団 総合病院 聖隷三方原病院
執行役員・事務局長）

尾関ゆかり氏（浜松市社会福祉事業団 浜松市発達医療総合福祉センター
相談支援事業所シグナル 所長）

加藤 久貴氏（弁護士法人 リコネス法律事務所 弁護士）

山田 浩昭氏（浜松学院大学 教授）

松本 浩一氏（本校 PTA 会長）

※校内参加者 校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、
訪問教育主任、教務課長、総務課長、防災安全課長、教育支援課長、
地域コーディネーター

1 開会の言葉

2 校長挨拶

3 自己紹介（今回、新規出席者のみ）

4 協議

(1) つながりをお大切にした学校づくりについて

ア 学校の取組の紹介

(ア) 各学部、訪問教育での取組（部主事、訪問主任）

- ・小学部主事：児童の実態に合った学習グループを編成しているが、学年活動を通して、学年のつながりも意識して活動している。都田南小との交流や地域ボランティアの活用により、地域との交流を図っている。
- ・中学部主事：個々のニーズに合わせた支援方法や教材の工夫をすることで、物・事とつながるようにしている。教員同士も話し合いの機会を増やして情報の共有を図っている。
- ・高等部主事：プレ実習や進路学習、生徒会主催のプロジェクト活動では、学習グループを越えて行い、生徒同士のつながりの機会を設けた。2学期以降は、地域店舗や地域ボランティアもさらに活用していきたい。
- ・訪問主任：スクーリングや訪問の集い、遠隔合同授業を活用して児童生徒・保護者同士のつながりを意識している。普段は1対1の授業なので、教員同士も少人数のグループ会や見合う会を行っている。

(イ) 地域ボランティアの取組（地域コーディネーター）

- ・地域コーディネーター：現在、19名の方に地域ボランティアとして登録していただいている。読み聞かせや花壇の整備、楽器演奏、書道、英語学習、手品など、多岐にわたっている。商店、飲食店、公共施設などの地域資源の活用や、作品展などを通じて地域への情報発信も取り組んでいる。

(ウ) P T A の取組（松本委員）

- ・松本委員：保護者ボランティアがアンクルウォーマーなどの子供たちが利用できるものを制作したり、オープンチャットを活用した会員同士の情報共有を行ったりしている。

イ グループ協議

(ア) 学校の取組に対する感想、意見

(イ) 「つながる」ための新たな方法、地域資源

(2) 本校の防災対策及び防災学習について

ア 学校の取組の紹介

(ア) 避難訓練等の年間計画及び内容（防災安全課長）

- ・防災安全課長：火災・地震・予告なしなどの避難訓練を年間で6回実施している。また、防災学習として、非常食体験やHUG等を行っている。教員向けには、不審者対応研修や危機管理マニュアルの確認、消火設備オリエンテーション等を行っている。

(イ) 地域と連携した防災対策（副校長）

- ・副校長：学校運営協議会や地域防災連携連絡会等で情報を共有している。「地域に学校や子供たちのことを知ってもらう」ことが大切である。逆に、「地域のことを知る」ことも必要である。

イ グループ協議

(ア) 学校の取組に対する感想、意見

(イ) 地域との連携方法

5 閉会